

# 私の紙面批評

弁護士

清源 万里子

## 障害者の実情取り上げて



(きよもと・まりこ) 1981年、中津市生まれ。2008年弁護士登録。11年大分県弁護士会入会。日本弁護士連合会・犯罪被害者支援委員会委員。現在、子育ての真っ最中。

不当な差別を禁止した障害者は障害の特性など、分  
 者差別解消法が2016年4月に施行され、3年がたに尋ねていた。職場でフ  
 つ。障害者が安心して暮らすこと、地域生活の「さ  
 さまざまな場面で見、誤解をなくし、不利益を受けたり孤  
 立したたりすることがないよう、重要なことだ。だが、  
 現実、上戸さんが「違いを尊重は厳しい。調査がそ  
 うしたと指摘する通り、障害の有

5月24日付朝刊では、福無に聞わず、お互い  
 社先進国と言われる北欧フ格と個性を尊重しながら多  
 くの人が安心して暮らせる社会が実現してほしいと思  
 う。

心温まる話題もある。今秋のラグビーワールドカッ  
 プ大分開催に向け、大分商高生が、社会福祉法人ア  
 プルミントと、パンとクッキーを共同開発したとい  
 う。

日本代表が着る桜のジャージにちなんだ商品で、写真もカラーで大きく掲載され、どれもとてもおもしろい。ビッグイベントを盛り上げようと地元高校生と障害者が組んだスクラム。今後は各地のイベントで販売するという。障害者や施設のことを理解してもら  
 う機会でもあり、頑張っ  
 本紙には、これからも継続的に障害者を取り巻く環境、実態、課題を取り上げてほしい。共生社会を地域で実現するため、報道の果たす役割はますます重要だ。

盲導犬を連れていくこと  
 理由に入院や施設利用を拒否された経験のある視覚障害者が52・9%に上ると4月3日付朝刊で報じられ  
 た。盲導犬を育成するアイメイト協会の調査で、塩屋日田市の上戸木縋子さんが  
 隆男代表理事は「盲導犬は視覚障害者にとって目であ  
 り体の一部だ」と訴えてい  
 る。

共生社会の実現に向け、か  
 れるという。「周囲の職  
 記事だ(5月30日付朝刊)。